

こどもと健康

NO・150

2014・9・24

RSウイルス感染症の流行始まる！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。RSって何？と思われる方も多いでしょう。Respiratory Syncytial の略で要するに風邪のウイルスの一つです。このウイルスの感染力は強く、保育所を中心に流行します。年長児以上は鼻カゼ程度でおわるケースもありますが、乳児が罹ると重症化することがあります。インフルエンザウイルスと同じく、冬のウイルスですが、ここ数年は9月から流行しており今年も9月になって保育所を中心に流行が始まりました。潜伏期は4～5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。乳幼児特に、6ヶ月未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして高熱も出て呼吸数も増し、息苦しくなることがあります。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。乳児は急速に気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎となることがあるので、注意が必要です。ありふれたウイルスですので、1歳までに半分、2歳までに殆んどの子が一度は感染を受けますが、初感染の時に最も症状が強く出ると言われます。何度でも罹患しますが、年長児になると次第に症状は軽くなり、鼻カゼ程度で終わる子もいます。お母さんからの免疫移行がない為、お母さんの鼻カゼから新生児が罹患して重症化することがあります。未熟児や先天性心疾患、慢性肺疾患の乳児には重症化を予防する為、抗RSウイルスヒト化モノクロナール抗体（シナジス）の注射を流行期の秋から春にかけて月1回注射して感染を予防することが出来ます。

インフルエンザと同じく飛沫感染をしますが、経口感染もあって赤ちゃんはなんでも口に入れますので、注意が必要です。感染の予防にはうがい、手洗いとアルコールによる消毒です。風邪をひいたら、咳エチケットを守り、特に赤ちゃんが口に入れるおもちゃやドアノブ等を消毒しましょう。家庭に乳児がいる場合は家族が鼻カゼ程度でも注意が必要です。

大阪府の感染症サーベイランスでは9月8日からの第37週では感染性胃腸炎に次いで第2位にランクしており、年齢は0歳児28%、1歳児40%、2歳児18%と3歳未満で約9割を占めます。寒くなるにつれて増加し、昨年は年末に流行のピークとなり、春まで流行が続きました。泉北ニュータウンでも流行している保育所があります。RSウイルスの迅速検査がありますので、ヒューヒュー、ゼーゼーを伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

母子手帳を持って受診しましょう！

接種漏れのワクチンや必要なワクチンをお話しします。

デング熱全国に拡散！

終戦後まもなくから国内における感染報告のなかった「デング熱」が8月27日に報告されて以来、9月19日までに全国で141例の報告がありました。その殆んどは東京都立代々木公園やその周辺に行った人々で今のところ局地的に発生しています。

「デング熱」はアジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯地域には普通に見られる病気で毎年5000万人～1億人の患者が発生していると考えられています。日本でも終戦後東南アジア等から引き揚げてきた人が持ち込み流行した時期もありましたが、この60年以上は国内における感染例はありませんでした。ただ、海外に於いて感染し帰国してから発症する輸入例は毎年報告されており、2012年は221例、2013年は249例ありましたが、重症者はありませんでした。

「デング熱」はウイルスを持った蚊、日本ではヒトスジシマカに吸血された際に感染します。ヒトからヒトに感染することはありません。この蚊は日中、公園や森林等に広く生息するヤブカ類で、昼間に吸血する習性があります。ウイルスを持った蚊に刺されると、3～7日して突然の発熱に激しい頭痛、関節痛や筋肉痛を伴い、インフルエンザに似た症状で発症しますがその後発疹が出るケースが多いようです。発熱は1週間程度続き、ごく一部に重症化してショック症状や出血傾向を伴う事もあり、「デング出血熱」と言われるケースがあります。抗ウイルス薬など特異的な治療法はなく、解熱鎮痛剤などの対症療法が中心となります。診断は衛生研究所でRT-PCRによるウイルス遺伝子の検出によります。

ヒトスジシマカの活動は10月下旬頃までですので、もうしばらくは注意が必要ですが、堺市内で採集された蚊からはデング熱ウイルスは見つかっていません。

10月からみずぼうそうワクチン定期接種化

保育所、幼稚園で毎年乳幼児に流行する「みずぼうそう」ワクチンがこの10月からやっと定期接種化されて無料になります。対象は1歳と2歳児で1歳のお誕生日がすんだらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同じ時期に1回目の接種をします。2回目の接種はMRワクチンが就学前の年長児ですが、このワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。ワクチンを接種すると1ヶ月位で免疫は95%程度出来ますが、時間の経過と共に減衰して保育所などで流行すると軽く罹るケースが結構あります。これを避ける為に、2回目のワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。既に罹った方や2回接種した方は対象外で、1回接種した方は6ヶ月以上あけて2回目を接種します。

副反応として生ワクチンですので、ごく軽いみずぼうそう症状の発疹が接種2週間後位に100人に一人程度あります。発熱はゼロではありませんが、殆んど出ないようです。発疹が出てても他人に「みずぼうそう」をうつすことはありません。

インフルエンザワクチンの予約開始！

10月1日からインフルエンザワクチンの予約の受付を始めます。携帯電話、パソコンから下記アドレスにアクセスして予約をお願いします。13歳未満は2回接種ですので4週間隔（3～5週で可）で2回とも予約して下さい。接種料金は初回3000円、2回目2500円です。確保したワクチンが無くなり次第、受付は一旦中止します。ご不明な点はホームページ、受付まで。

<http://0722977771.com/i/>